

東葛しぜん観察会

「植物から纖維を取ろう」の研修会に参加して

玉川 弘幸 (千葉市)

日時：2021年9月3日（金）9:30～14:00 天候：小雨

参加者：10名（女性8名、男性2名）

担当講師：日野原、片岡

天候不順の日が続く中、クズ・カラムシの植物纖維を使ったコースター作りが柏市の「手賀の丘青少年自然の家 ピロティ」で行われた。

全員揃った所で、挨拶と打合せがあり、三密・ソーシャルディスタンスに十分注意を払いつつ、実習が開始された。先ず、流し台に水を溜め、各自持参したカラムシを浸泡置いた。こうして、1時間程水に浸しておくと、纖維に水が含み表皮が剥がれやすくなるようだ。一方、クズの方は、先端から1.5m位の所で切断して、リース状に丸めて鍋に入れ、その中で20～30分煮沸する。クズが茹ったら輪をほぐして、軟らかくなつた表皮を手で剥ぎ、表皮の内側にある白い纖維を取り出すために、板の上でスクレーパーなどを使って表皮の緑色の部分を取り除いていく。この作業は中々大変です。力を入れ過ぎると纖維が切れてしまうので、力の入れ加減が難しい。中の白い纖維が出てくるまでスクレーパーでひたすら剥く。実際に根気のいる作業です。

朝一番で水に浸けておいたカラムシの茎は、少し軟らかくなつた所で取り出し、根に近い部分を手で折り、表皮を剥ぎ取っていく。流し台を囲んで、和気あいあいと皮を剥いでいる姿は井戸端会議と言ったところでしょうか。

作業の途中で講師の方から、コースターを織るために使う、段ボール織機の作り方の説明と織り方の実演が披露されました。また、会津、昭和村のからむしの里での、カラムシの布を織る体験談も聞かせて頂いた。

席に戻って、早速、作業に取り掛かりました。作成した段ボール織機に縦糸を張るまでは良かったのですが、縦糸一つ置きに、2mm幅に裂いた纖維を巻いた杼（ひ）を横に通す段階で、力んでしまったのか、指が吊ってしまいました。隣の席の女性から、少し緊張しているんじゃないですかと声を掛けられました。

見ているのとやって見るとでは大違い。今回のクズの纖維を使ってのコースター作りは時間の関係で完成を見ませんでしたが、クズやカラムシから纖維を取り出す方法が実践出来た事は良かったです。今後の観察会での、クズやカラムシの説明に厚味が加わりました。あっという間の研修会でしたが、貴重な体験をさせて頂きました。

講師の皆様、ありがとうございました。



カラムシの表皮を流しで剥ぐ作業



クズの乾燥した纖維を杼にセット



カラムシの纖維やコースター見本